

K-SCOPE PDF サマリー版配信 8月号

※SharePoint に掲載している記事から、主に事業所ニュース等を掲載。

— 目 次 —

- [教育企画部 コマツ工業専門学院] コマツ工専フォーラム開催
- [小山工場] DBA127 エンジンをテクニカルセンタに展示
- [滋賀工場] 滋賀県立琵琶湖博物館へ寄附、感謝状授与式に出席しました！

[教育企画部 コマツ工業専門学院] コマツ工専フォーラム開催！



2026 年 6 月 16 日にコマツウェー総合研修センタにてコマツ工専フォーラムを開催しました。

本フォーラムは、コマツ工専の 20 年間の歩みと人材育成の成果を振り返るとともに、修了生・在校生が世代を超えて集い、自身のキャリアや学びを共有し、今後のコマツ工専の在り方について意見交換を行うことで、互いの考えを深めることを目的に実施しました。当日は、修了生によるキャリア紹介や在校生による学院生活の報告、更にグループディスカッションなどを通じて、1 期生から現在の在校生（19 期・20 期生）まで 122 名が世代を超えて交流を深めました。

<学院生活の紹介（18 期・19 期）>

18 期生および 19 期生より、現在の学院生活についてご紹介いただきました。コマツ工専では、ものづくりの基礎から応用まで体系的なカリキュラムが構築されており、多面的な教育が行われていること、また、資格取得や地域活動、イベントを通じて「技術力」と「人間力」の両面を高めている学院生活の様子についても、具体的に紹介されました。



<修了生によるキャリア紹介・次世代へのメッセージ>

修了生によるキャリア紹介では、生産本部茨城工場生産部溶接課 課長 小貫 智之氏（1 期生）、コマツ NTC 株式会社生産本部コンポーネント部ユニット製造課 課長 山 雅浩氏（2 期生）、生産本部栗津工場管理部サイマル推進課 主査 瀧 修市氏（3 期生）より、これまでの歩みや現在の業務についてご紹介いただきました。海外拠点における業務経験や原価低減、工場再編への取り組みなど、実務における具体的な経験を通じて、工専での学びがどのように活かされているかが共有されました。

また在校生に向けては、主体性をもって挑戦することの大切さや、変化を前向きに捉え学び続けていく姿勢の重要性について、共通したメッセージが伝えられました。今後のキャリアを考えるうえで、多くの気づきにつながる時間となりました。

【1期生：茨城工場生産部溶接課 小貫課長 メッセージ要旨】

在校生の皆さんには、今後「自分がどうありたいか」を考えながら成長してほしいと思います。コマツでは、自分のやりたいことや改善のアイデアを提案し、実際に形にできることが大きなやりがいになります。そのためには、基礎知識や課題を分かりやすく示す力が重要です。将来について悩むこともありますが、一人で抱え込まず、周囲の人や先輩を頼りながら進んでください。このフォーラムが、そのヒントや支えになることを願っています。



写真左から 小貫 智之氏（生産本部茨城工場生産部溶接課・課長）、山 雅浩氏（コマツ NTC 株式会社生産本部コンポーネント部ユニット製造課・課長）、瀧 修市氏（生産本部栗津工場管理部サイマル推進課・主査）

＜グループディスカッション＞

フォーラム後半では、全員参加によるグループディスカッションを実施しました。

「これまでの歩みの振り返りと今後の工専の在り方」をテーマに、1期生から20期生までの全16グループに分かれ、「自身のキャリアの振り返り」や「工専で得た学びや価値」、「今後求められる工専の姿」について活発な意見交換が行われました。世代を超えた率直な対話を通じて、縦のつながりを強く実感する機会となりました。



＼工専フォーラム終了後、こまつの杜の大型鉱山機械（930E・PC4000）前で記念撮影を行いました／



<工専フォーラム後の交流・懇親会>

工専フォーラム終了後は、「こまつ北電ホール」にて懇親会を実施しました。懇親会には、コマツ工専の立ち上げから関わってこられた関係者の方々にもご参加いただき、修了生との再会や世代を超えた交流が深まりました。また、修了生にとっては恩師や仲間との久しぶりの再会の場となりました。

初代学院長（野田肇氏）によるご挨拶の様子 →



<おわりに>

本フォーラムを通じて、世代を超えた交流と学びの共有が深まり、コマツ工専の価値を改めて実感する機会となりました。今後もこうした取り組みを通じて、さらなる人的ネットワークの強化と人材育成の発展につなげていきます。

[小山工場] DBA127 エンジンをテクニカルセンタに展示！

新型エンジン DBA127 が小山テクニカルセンタの エントランスに展示されました！！

DBA127 エンジンは、2024 年より量産を開始した排気量 12.7L の新型ディーゼルエンジンです。中大型エンジンとして約 40 年ぶりとなるクリーンシート開発により誕生した本エンジンは、シンプルで強靱な構造による高い信頼性を確保しながら、クラストップレベルの高出力と低燃費を実現しました。コマツの最新技術を結集した高効率燃焼技術と先進の排ガス後処理システムにより、環境性能と経済性を高い次元で両立しています。現在は、WA475-11、WA485-11、HM460-6、D175AX-10 などに搭載されています。



圧倒的な存在感を放つ DBA127 エンジン



CONEXPO での展示

<CONEXPO 2026 でも脚光を浴びました>

DBA127 エンジンは 3 年に一度開催される北米最大級、かつ世界有数の建設・鉱山・土木関連の国際展示会「[CONEXPO-CON/AGG](#)」(2026 年 3 月 3 日～7 日 米国ラスベガス)に単体展示されました。複数の新機種を含む各種機械の展示に加え、DBA127 エンジンの単体展示はコマツのコンポーネントの内製化による強みと高い技術力を対外的にアピールし、多くの来場者の関心を集めました。

<エントランスへの搬入作業>

北米での展示を終えた DBA127 エンジンは小山工場へ戻り、一度北第四工場へ搬入されました。その後、約 2 トンにおよぶエンジンを屋内へ設置するにあたり、エントランスのタイルへの負荷対策や搬送方法について、関係部門が一体となって検討と準備を重ねました。当日は、エンジン製造部、総務部、コマツ物流をはじめ、多くの関係者の協力のもと、無事に搬入・設置を完了することができました。一つの目標に向かって取り組むコマツグループのチームワークを改めて実感する機会となりました。蒸し暑い天候のなか、搬入作業にご尽力いただいた皆さま、ありがとうございました！！



慎重に搬入作業を実施



<おわりに>

海を渡り、コマツの技術力を世界に発信した DBA127 エンジンが、このたび小山工場へ戻ってきました。環境性能と経済性を高いレベルで両立し、今後のコマツの競争力を支える重要なキーコンポーネントとして、さらなる活躍が期待されています。

小山工場はこれからも、社員一人ひとりの技術力とチームワークを結集し、世界中で活躍するコマツ建機を支える競争力の高いキーコンポーネントの開発・生産に挑戦し続けていきます！！

[滋賀工場] 滋賀県立琵琶湖博物館へ寄附、感謝状授与式に出席しました！



左：工場長の朝日さん、右：琵琶湖博物館館長の亀田さん

<感謝状授与式に出席しました>

滋賀工場は、地域社会への貢献活動の一環として滋賀県立琵琶湖博物館へ寄附を行い、このたび感謝状授与式に出席しました。

琵琶湖博物館は「湖と人間」をテーマに、琵琶湖の自然や歴史、人々の暮らしとのつながりを学び・体験できる施設です。

同館は、地域環境の保全や次世代教育の推進において重要な役割を担っており、コマツのサステナビリティ基本方針にも通じる取り組みを進めています。今回の寄附は、こうした活動を支援することを目的に実施しました。

<地域と共に歩む企業として>

工場長からの挨拶では、琵琶湖博物館が滋賀県民にとって特別な存在であり、自身も家族と共に何度も訪れた思い出深い場所であることが紹介されました。コマツが推進するサステナビリティの考え方や、琵琶湖博物館が掲げる自然と人との共生という理念には多くの共通点があることに触れ、今回の寄附を通じて、地域社会へ貢献できることへの思いが語られました。



ビワコオオナマズを水槽の下から観察！



館長から生き物について説明を受けている
工場長の朝日さん

<博物館見学で琵琶湖の魅力を再発見>

授与式後、館長のご案内のもと館内を見学しました。館内では、琵琶湖の水中世界を再現した展示や、湖に生息する魚類・水鳥などの生態展示を見学し、琵琶湖の豊かな自然環境や生物多様性について理解を深めました。

特に、まるで水中にいるかのような臨場感あふれる展示や、実際の生き物を観察できる大型水槽は非常に印象的で、改めて琵琶湖が地域にもたらす恵みの大きさを実感しました。

<おわりに>

滋賀工場は今後も地域社会との共生を大切にしながら、環境保全や次世代育成への取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献し、地域の皆さまと共に良い未来づくりを進めていきます。

【琵琶湖博物館のご紹介！】

琵琶湖博物館は、日本最大の湖・琵琶湖の成り立ちや歴史、多様な生態系、人々の暮らしとの関わりを総合的に学べる施設です。館内には琵琶湖固有種をはじめとする多彩な生き物を展示した大規模な水族展示があり、湖中の世界を間近に体感できます。また、化石や昔の琵琶湖・自然の様子を紹介する展示のほか、参加型・体験型の展示も充実しており、子どもから大人まで楽しみながら学ぶことが魅力です。滋賀県を訪れた際には、ぜひ足を運んでみてください。

アクセスはこちら→ [リンク](#)

最後までお読みいただきまして、ありがとうございます。次号もお楽しみに！